



美術研修

2025年11月20日（木）～21日（金）
講師：美術研究家 沼辺 信一氏

広島 美術館をたずねて

広島は魅力的な観光スポットが多く、美術館めぐりを目的として訪問する機会はなかなかありません。今回の美術研修は1泊2日でじっくりと美術を堪能しました。



ひろしま美術館にて



南薫造《曝書》
1945年
広島県立美術館蔵



クロード・モネ
《セーヌ河の朝》1897年
ひろしま美術館蔵



フィンセント・ファン・ゴッホ
《ドービーニの庭》1890年
ひろしま美術館蔵



下瀬美術館 サム・フォールズの大作を鑑賞



下瀬美術館 可動展示室の向こうに宮島を望む



沼辺先生より作品解説

世界文化遺産「厳島神社」にも参詣でき、芸術と文化を堪能した2日間でした。

広島県立美術館

広島市の中心部に位置し、浅野家の大名庭園である名勝・縮景園に隣接した美術館です。中国地方初の公立美術館として1968年に開館し、1996年にリニエール・オープンしました。ガラス張りのエントランスロビーからは、縮景園の紅葉を眺めることができました。

当美術館は、広島県ゆかりの美術作品や、日本とアジアの工芸作品など約5000点を所蔵しています。当日はコレクション展「過去へのまなざし、人々のいとなみ」が開催されていました。村の子どもや田植えなど、日々の暮らしを切り取った、何の気取りもない素朴で温かい日本の原風景のような絵画の数々を鑑賞しました。

併せて、特別展「ブルックリン博物館所蔵 古代エジプト」も見ることができました。彫刻、棺、宝飾品、ミイラ等、約1500点の貴重な展示とともに、最新技術を使った研究成果が映像で紹介され、古代の高度な文化と死生観に触れました。

ひろしま美術館

1978年、広島銀行が創業100周年の記念事業として設立した美術館です。愛とやすらぎのために」をテーマに、今日の広島礎となられた原爆犠牲者の方々への鎮魂の祈りと平和への願いがこめられています。建物は、原爆ドームをイメージした丸いドーム型、本館を取り囲む回廊は、厳島神社をイメージしています。

本館にはフランス近代絵画を中心に、モネ、

ルノワール、ゴッホ、ピカソなどの作品約80点が常設展示されています。展示室へ一歩踏み入ると、名画の数々に圧倒され戸惑うほどです。中でも当美術館の代表的な作品、フィンセント・ファン・ゴッホの《ドービーニの庭》については講師の沼辺先生より詳しく解説がありました。「ゴッホが亡くなる直前に描いた作品で、感情の起伏が激しかったと言われる彼が独特の力強いタッチを用いながらも、非常に繊細で考え抜かれた色彩で描いています。色々なものがうねり傾いていても全体としては均衡がとれており不安定な要素がなく美しい。ゴッホが画家として最高潮だったことがわかる作品ですね。」

やはりゴッホはすごい、と思わせる名画でした。

下瀬美術館

広島市内から車で40分ほどの大竹市にある当美術館は、丸井産業株式会社の創業家のコレクションを中心として2023年に開館しました。特に注目されているのは個性的な建築です。瀬戸内海に面した敷地には水盤に浮かぶ8つの可動展示室があり、その外壁に瀬戸内海の風景が映り込み、建物と自然が不思議な調和を見せています。建築家坂茂（ばん・しげる）氏によるこの建物は2024年にユネスコ「世界で最も美しい美術館」の最優秀賞である「ベルサイユ賞」を受賞しました。

当日は新コレクション展として、サム・フォールズ、松山智一による現代アートが紹介されました。新しい美術館がこれからのようなコンセプトで作品を収蔵していくのか。今後が楽しみです。美術館です。